

## 結婚って

中津市長 奥塚 正典

昔に比べ、若い男女の出会いの機会が多いと思われがちですが、そうでもないのです。ネットやスマートフォンの便利さが、対面接触をかえって減らしているのかもしれませんが。

未婚化と晩婚化が進む一方で「婚活」<sup>こんかつ</sup>流行り。結婚を希望する人が出会いの機会を求めます。人の出会いは様々、何がご縁になるかわかりません。行政も男女が出会うきっかけづくりのお手伝いです。中津市も民間機関と共に「婚活パーティー」を開催、めでたく結婚するとお祝いを差し上げています。先日、漁協の牡蠣小屋での「カキ婚」では6組のカップルが成立とのこと。県も「出会いサポートセンター」を設けています。

ところで結婚披露宴、昔とはずいぶん様変わり。媒酌人はなし、いろいろな演出がなされ、新郎新婦も余興に参加します。ただ変わらずあるのが、お祝いスピーチ。この役を仰せつかると結構考えます。周りの「早く乾杯しましょうよ」の雰囲気の中、新郎新婦に心に残る言葉の一つも送りたいし、エピソードも交えながら明るく場を盛り上げられるとよいのですが、難しいですね。

「二つの<sup>オ</sup>と一つの<sup>エ</sup>Aを忘れないで実践して下さい。朝起きたら『おはよう』、夜寝る前に『お疲れ様』、そして、いつも『ありがとう』。この三つが行き交う家庭は幸せになります」。加えて「人生いろいろなことがあります。うれしい・楽しいことは二人で二倍に、悲しい・つらいことは二人で分け合って半分に、そんな仲の良い夫婦になってください。そのためには二人で工夫を」と月並みながら心からのお祝いで結びます。

熱愛の新郎新婦、笑顔の親族、祝福の出席者と心温まる時を共有した後、帰宅。「素敵なおカップルですね。でもあなたのスピーチ、自分自身が実行した方がよいものばかりですよ」と40年来のパートナー。赤面自戒！

